



東京都立立川学園 学校通信⑨

令和7年 12月 1日

# 立川だより

東京都立立川学園  
校長 市川 裕二  
東京都立川市栄町 1-15-7  
電話 042-523-1358



## デフリンピック開催



11月15日（土）から12日間、東京2025デフリンピックが開催されました。

東京2025デフリンピックのホームページには、デフリンピックについて、以下のよう  
に記載されています。

「デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。デフ（Deaf）とは、英語で「耳が  
きこえない」という意味です。デフリンピックは国際的な「きこえない・きこえにくい人  
のためのオリンピック」なのです。

国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対  
象とした国際スポーツ大会です。第1回は、1924年にフランスのパリで開催されました。  
東京2025デフリンピックは、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催に  
なります。国際手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴  
です。デフリンピックには、①「補聴器」などを外した状態で、きこえる一番小さな音が  
55dB（デシベル）を超えており、②各国の「ろう者スポーツ協会」に登録されている選手  
で、記録・出場条件を満たしている人が参加できます。

タッチ部門だけでなく、学校全体で大きく関わった世界大会でした。本校でも、タッチ  
部門の幼稚部から高等部専攻科の幼児・児童・生徒が、陸上競技等の大会会場に行き、選  
手の応援をしました。また、女子バレーボールの決勝日には、本校バレーボール部及び高  
等部運動部の生徒を中心に、選手の入場をエスコートする役割を担ったほか、陸上競技で  
は、中学部・高等部の代表生徒がトレイベアラーを務め、バドミントンでは、小学部5・  
6年生の児童がエスコートキッズを務めました。

この原稿を書いている11月17日には、前日の16日に女子柔道52キロ級で、今大  
会の日本勢メダル第1号である銅メダルを岸野選手が獲得したというニュースが入りまし  
た。今回のデフリンピックでは、本校でも選手に向けて熱い声援を送り、多くの競技で日  
本人選手が活躍されました。

さて、11月17日から校内では、子供も大人もインフルエンザに罹患したという報告  
が多く出てきました。今年は例年よりも、インフルエンザの流行が早いとニュースで報道  
されていましたが、本校においても、その通りになりそうです。インフルエンザの感染を  
防ぐポイントは、「手洗い」「マスク着用」「咳（せき）エチケット」と言われています。御  
家庭でも、御注意いただけると幸いです。なお、インフルエンザに罹患した場合は、出席  
停止になりますので、担任等へ御相談いただきますようお願いいたします。